



播磨圏域 連携中枢都市圏

連携中枢都市圏の形成経緯について

主な国の動き

地方自治法の改正

→ 「連携協約」の制度を導入
(平成26年11月1日施行)

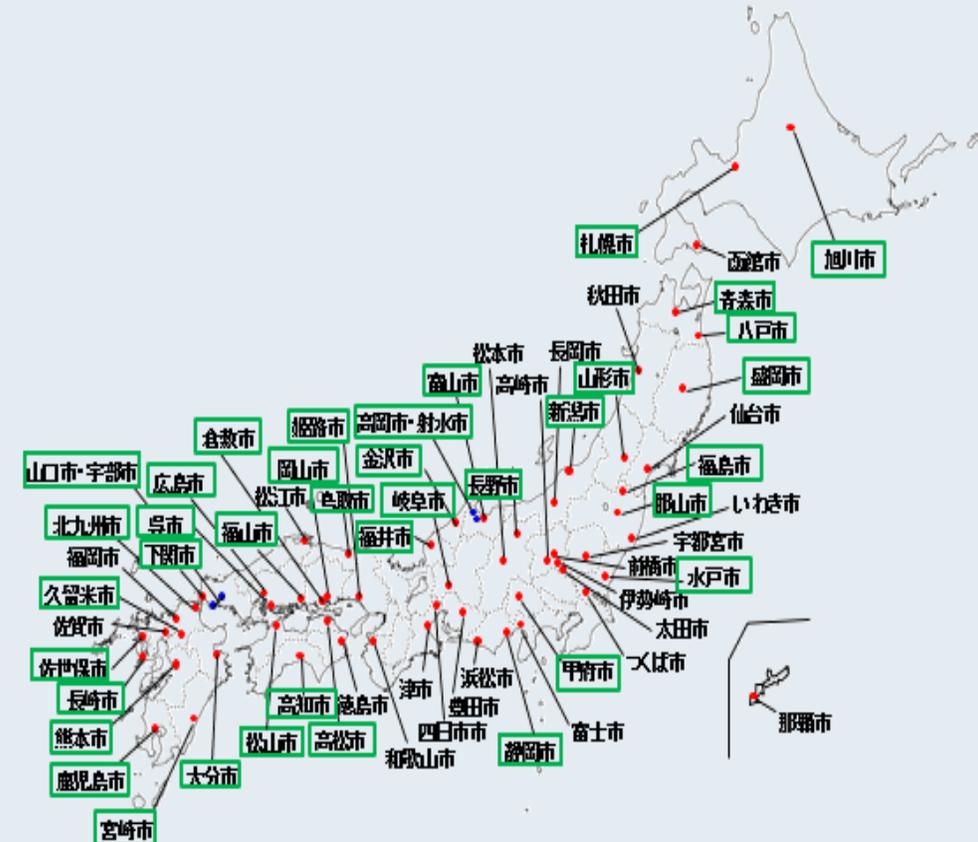
連携中枢都市圏の形成等の推進を支援

→ 国費による支援

地方交付税措置を講じた全国展開

令和5年4月1日現在、
38圏域において連携中枢都市圏を形成

□ は、都市圏を形成している団体（38圏域）
● は、連携中枢都市の要件を満たす市（59市）



播磨圏域の形成について

- ・平成27年 播磨圏域連携中枢都市圏を形成

姫路市が「**連携中枢都市宣言**」を行う。

姫路市が連携中枢都市となり

7市8町と連携協約を締結

- ・播磨圏域連携中枢都市圏ビジョン

第1期ビジョン：平成27年度～平成31年度

第2期ビジョン：令和2年度～令和6年度

⇒ 現在は第2期ビジョンの4年目



成長戦略会議の位置づけ

播磨圏域が目指すべき将来像（播磨圏域連携中枢都市圏ビジョン）

圏域各市町が、産官学金労言とも協力して、圏域全体の経済を活性化し圏域の魅力高めるとともに、住民が安心して暮らすことができる圏域づくりを進め、活力ある社会経済を維持するための拠点となることを目指している。

3つの役割

圏域全体の経済成長
のけん引

高次の都市機能の
集積・強化

圏域全体の生活関連
機能サービスの向上

播磨圏域成長戦略会議

播磨圏域の産官学金労言の代表者により目指すべき将来像の実現にむけた意見交換等を行う

圏域全体の経済成長のけん引

播磨圏域の情報発信 (連携事業No.3)

▶サンテレビ「はりまサタデー9」の放映、「はりま読本」の制作・配布等



⇒ デジタル版に順次移行

令和5年度は、「はりまサタデー9」の認知度向上を目的に、神戸マツダファンフェスタ2023に各市町のブースを出展。

圏域全体の経済成長のけん引

「播磨地域ブランド」の確立 (連携事業 No.11)

- ▶ 圏域内での醸造イベント・商談会の開催
- ▶ 地域醸造ガイドブック作成



イオン姫路大津店 ポップアップイベント



日本酒試飲会の様子

高次の都市機能の集積・強化

姫路駅周辺整備事業の推進 (連携事業No.22)

▶ 播磨の玄関口である姫路駅周辺の整備



J R 姫路駅北側のエントランスゾーン



播磨圏域最大規模の文化コンベンション施設「アクリエひめじ」が令和3年9月に開業

高次の都市機能の集積・強化

都市交通システムの整備促進 (連携事業No.23)

▶ 手柄山JR新駅の整備



	内容	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)
①	準備工 (周辺道路)	[Blue bar]				
②	駅舎・ホーム 自由通路		[Blue bar] R8春 新駅開業			
③	駅前広場整備			[Blue bar]		
④	周辺道路				[Blue bar]	

圏域全体の生活関連機能サービスの向上

救急搬送支援システムの広域化 (連携事業No.43)

- ▶ 「HEARTS」システム構築、令和3年10月本格運用開始

救急隊と病院が傷病者の受入れ可能状況をリアルタイムで共有し、救急搬送時間の短縮を図る。



救急搬送システム操作の様子



指令センターでも確認可能

中・西播磨地域の消防本部（姫路市消防本局、西はりま消防本部、赤穂市消防本部管内）で運用中

圏域全体の生活関連機能サービスの向上

広域連携バス路線網等の維持・形成 (連携事業No.45)

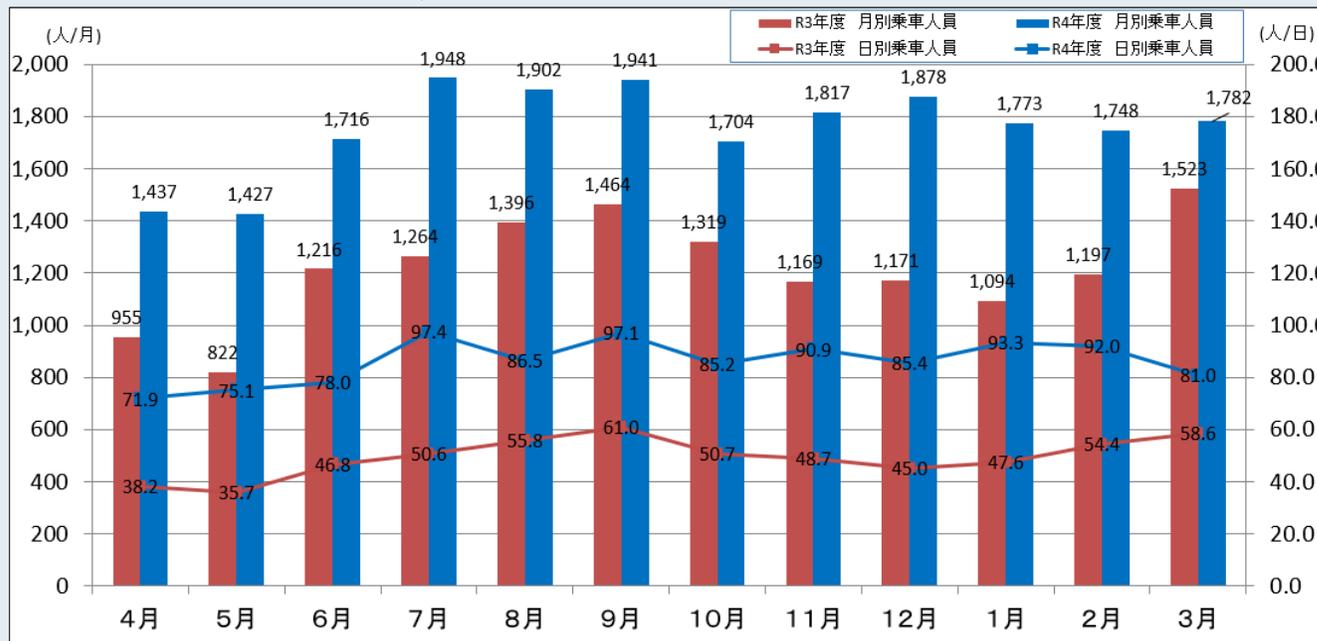
▶ 福崎町・姫路市連携コミュニティバス

令和3年 4月 本格運行開始

【料金】 1回 200円 (小学生及び福祉対象者 100円)

令和4年度の乗車人員は2万人を超え、地域住民の日常生活を支えている。

コミュニティバスの乗車人員推移 (R3-R4)



公共交通空白・不便地域での移動困難者に対する課題解決に向け、社会実験やアンケート調査を経て、連携コミュニティバスを運行している。

